

「先古代史の会」2020年10月度例会 2020年10月25日(日)14:00~16:40

テーマ 日本の神道について

1. 発表会 1) テーマ「日本の神道は岡山の巫女神道からはじまった！」

発表者 : 岩崎 純一

(緑字: 発表・配布前に全資料に手書き追記。赤字: 発表後に実際の進行や振り仮名をこのデータのみに追記。)

(1) 自己紹介(本日のテーマとの関連)

(ア) 自己紹介

- ◇ 財団法人事務局長、学術団体監事(国・内閣府との関わり)
- ◇ 日本大学芸術学部文芸学科非常勤講師
- ◇ 西洋哲学(ニーチェ哲学、実存哲学)、東洋思想(仏教哲学、神道、アジアの宗教)、神道以外の日本思想(九鬼周造、鈴木大拙、久松真一、西田幾多郎など)、和歌詠草・詠進や古典・古物解釈、国語・日本語・言語学、社会学、人類学、民俗学など

(イ) 岩崎純一学術研究所(Iwasaki Junichi Academic Institute, IJAI)

- ◇ 岩崎および関係者の活動を統括する学術結社
公式サイト: <https://iwasakijunichi.net/> メールアドレス: office@iwasakijunichi.net

(ウ) 岩崎による神道関連の研究資料

- ◇ 『岡山県巫女特別協力資料 旧吉備王国(郷里岡山県および兵庫県、広島県、山口県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道令和新時代 最終協力版』
 - 岡山県巫女特別協力資料・姉妹資料および筆頭編著者・協力者の一覧(『全集』第2巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/0/2/2-15.pdf>
 - 1『日本神道道統図』(『全集』第14巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/1/4/4-1.pdf>
 - 2『吉備・ヤマト相関図』(『全集』第14巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/1/4/4-2.pdf>
 - 3『吉備巫女神道・ヤマト皇統相関図』(『全集』第32巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/3/2/2-1.pdf>
 - 4『日本旧派歌道流派総覧』(『全集』第92巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/9/2/2-6.pdf>
 - 5『日本旧派歌道流派系統図』(『全集』第92巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/9/2/2-8.pdf>
 - 6『吉備巫女神道に対する弾圧策の実相とその再興計画』(『全集』第14巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/1/4/4-3.pdf>
 - 7『巫女神道吉備派道統総覧』(『全集』第14巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/1/4/4-4.pdf>
 - 8『巫女神道吉備派の大局的歴史観マップ』(『全集』第14巻) サイトからマップリンク
- ◇ 姉妹資料
 - 『巫女神道比較表』(『全集』第14巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/1/4/4.pdf>
 - 『巫女神道探訪記 - 日本的アニミズム感覚の源流を訪ねて -』(『全集』第14巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/1/4/4.pdf>
 - 『大日本帝国陸軍歩兵第十連隊(岡山・鉄五四四八部隊)戦史調査資料』(『全集』第34巻)
<https://iwasakijunichi.net/2/1/3/4/4-1.pdf>

ここで、案内チラシ・BCC メールに載せていただいた発表概要を読む。

(2) 「常識的な」・「正しいとされる」歴史・古代史と学校教育（集団心理）

— 旧石器発掘捏造事件を例に —

(ア) 事件の概要

1970年代から2000年にかけて、考古学研究者の藤村新一が、別の縄文時代の有名無名の遺跡や地層から趣味で収集した縄文時代以降の石器を、より古い地層に埋め、旧石器時代のものとして自ら「発掘・発見」した捏造事件。2000年11月5日付の「毎日新聞」朝刊がスクープした。

藤村はそれまで「神の手」と崇められ、文化庁、東北旧石器文化研究所、考古学界、大学教授らがその業績を捏造と知りながら藤村を賞賛し、利権のために捏造を利用した。発覚以前から信憑性に疑念を呈した者たちは、学界から追放された。（公立女子大学非常勤講師の竹岡俊樹がその筆頭。）

2001年に日本考古学協会内に「前・中期旧石器問題調査研究特別委員会」が正式に発足（研究方法論研究部会長には岡大法文学部出身の春成秀爾）。上高森遺跡、座散乱木遺跡、馬場壇A遺跡などの旧石器とされるもののほとんどが縄文時代の所産であると判明した。

(イ) 事件の本質

この事件の本質は、アマチュアの石器・遺跡愛好家の藤村新一が国や考古学界を騙した事件ではなく、国・文化庁、考古学界、大学・学閥が、自ら手を汚さずアマチュアの捏造の手を借りて世間や教育界を騙したところにある。

ほとんどの義務教育の教科書は下記の通り書き換えられた。

- 「日本には、北京原人よりも古い日本原人がいた」
- 「日本への原人の定着は中国・朝鮮よりも早く、70万年以上前である」
- 「日本以外の原人は現生人類とは別に進化して滅びたが、日本人のみが特別な民族で、日本原人の直系子孫である」

（岩崎もこのように教育されています。ちょうど2001年1月のセンター試験と2月の東大入学試験を受けています。委員会の調査報告は、岩崎の受験年には間に合わず、結果的に虚構を教育された最後の世代となりました。）

(ウ) さらなる根本的な背景

さらなる根本的な背景・発端は、明治大学・杉原荘介（そうすけ）一派が抱えていた、相沢忠洋一派に対するルサンチマン（妬み）であったと言える。杉原荘介一派は、静岡県登呂遺跡の発掘調査で名を馳せたが、のちに相沢忠洋一派がこれより古い群馬県岩宿遺跡を発見した際、相沢らを黙殺し、同遺跡発見の功績を独占した。相沢を慕っていた芹沢長介（ちょうすけ）一派は、相沢らの名誉回復を望んで明大から東北大に移り、ここに藤村新一が加わったが、杉原の学閥に対抗するには、岩宿遺跡よりも古い遺跡を発見するほか手なくなった。芹沢の弟子で文化庁主任文化財調査官となっていた岡村道雄も、東北大・東北旧石器文化研究所側の肩を持った。

そこで、藤村が古い地層に縄文石器を埋めることを思いつき、実行したが、人類が住めない火砕流の堆積層に埋め込むなどのミスを犯した。外部からの指摘で、岡村らが藤村の捏造に気づいたが、黙認した。

相沢、芹沢、藤村、岡村らの生い立ちや古代への純粋なロマンの持ち方、「石器少年」・「遺跡少

年」ぶりを比較してみると、大差があるわけではない。

(「私には50万年前の地形が見える」『月刊現代』2000年11月号、pp.112-119、講談社)

むしろ、当初は藤村よりも杉原のほうが、日本最古の遺跡発見者を自身であると吹聴している。

捏造の潜在的主体は大学組織・学閥とそれに期待する日本国民の群集心理であり、さらには、相沢、芹沢、藤村らや岩宿遺跡の悲劇を利用した国家（文科省、文化庁）であると言える。

(エ) 在野の歴史研究家が肝に銘じておくべきであると岩崎が考えていること

ある国の「常識的な歴史観」、「大多数が信じる歴史」、「正史」とは、必ずしも史実が観察・記録されたものではなく、国や学閥、国民のマジョリティの都合によって、国史という「演劇」のために創作・記述された一種の「脚本」である。『記紀』、六国史、『新撰姓氏録』、『勅撰和歌集』(括弧不要でトル)などに見える国家観や記録の疑わしさと、石器捏造事件で展開された国家観や記録の不透明さ(虚構の創り上げ方)は、本質的には同じものである。

今回のテーマで日本固有の思想体系とされる「神道」についても、同様である。現在の神道を主導する中枢機関である神社本庁・伊勢神宮や神道系の大規模単立宗教法人(靖国神社、伏見稲荷大社、日光東照宮、出雲大神宮、八坂神社、車折(くるまざき)神社、石切劔箭(つるぎや)神社など)の神道思想が本当に「日本的」・「神道的」であるか否かを、外部・在野の者が検証する必要がある。

(「立」:案内メールで「単立」が「単位」となっており、「単立法人」の語もほぼ同義だが、「単立法人」の法令用語がある旨を説明。)

(オ) 在野の歴史研究者から見た、その他の疑わしい国策の例

- ◇ 宮内庁の治定(じじょう)陵墓(菅田御廟山古墳、大仙陵古墳など)

(3) 日本神道の起源としての吉備神道

- ◇ 「神道」という言葉と宗教(religion)
- ◇ 「吉備神道」、「巫女神道」という言葉(参考:「出雲神話」、「出雲神道」)
- ◇ 王政復古の重大令(1868年):「諸事神武創業ノ始ニ原キ」
- ◇ 明治六年一月十五日 教部省達第二号 梓巫市子並憑祈禱孤下ケ等ノ所業禁止ノ件(あずさみこいちこならびによりきとうきつねさげとうのしょぎょうきんしのけん)(巫女禁断令)

巫女および巫女祭祀(呪術、巫女舞・巫女神楽、磐座神事、神剣演舞、加持祈禱など)を「淫祠邪教」として禁止。教部省達として二回、吉備の神官・神職(神社局の傀儡)を介した直接の弾圧が約十回。陰陽道禁止令、修験道禁止令も発令され、陰陽師、修験者は吉備の巫女と反朝廷・反政府の立場で結託した。現在、巫女は男女雇用機会均等法の適用対象外にある非神職で、神社・神職の使用人。狭義の神道界・神道理論体系に「巫女」という存在はないことになっている。
- ◇ 宗教発祥地としての岡山(浄土宗、臨済宗、金光教、黒住教)

教団本部の所在地や登記場所ではなく、創始者(吉備人多し)が幼少期・青年期に神仏の啓示を受けたり、思想哲学を着想したと主張している日本の土地としては、吉備が最多と思われる。吉備=靈的なまほろば、まほらば、まほらま
- ◇ 埴輪の発祥地(「特殊器台・特殊壺」と命名)
- ◇ 造山古墳(ヤマトの大規模前方後円墳の築造前は、吉備が第一位だった時期がある。)

◇ 岡山県都窪郡莊村日畑藤ノ木

自説：ヤマト、吉備津・吉備津彦神社勢力が奈良県斑鳩町の曰く付きの円墳、藤ノ木古墳の名を付け、楯築地域を畿内の前方後円墳の下位に沈めることで、吉備の呪詛を退ける狙い。一説に、藤ノ木古墳の被葬者は穴穂部皇子（あなほべのみこ）と宅部皇子（やかべのみこ）とされる。物部守屋は穴穂部皇子を皇位に就けようと画策し、宅部皇子も協力。

◇ 吉備神道、巫女神道、シャーマニズムが神道（日本神道、ヤマト神道）の原点とする説を

➤ 概ね否定、嫌悪する公的機関・民間宗教勢力（男系男子皇統を神道の根幹と見る男性中心）

政府、自民党、宮内庁、文科省、文化庁、皇室神道、神社神道、国家神道、神社本庁（皇典講究所、大日本神祇会、神宮奉斎会）（現在、表向きは民間機関、一宗教法人だが、実態は政府と結託した神道統括機関）、伊勢神宮（神社本庁本宗（ほんそう））、神道系大規模単立宗教法人、日本会議、神道政治連盟、新しい歴史教科書をつくる会、公明党、現創価学会（旧出雲派・南朝正統論一派を除く）、浄土真宗（国家神道設計に協力。神道国教化失敗後の神社非宗教論の提唱主体）、岡山県、岡山県神社庁、岡山県護国神社、吉備津神社、吉備津彦神社、金光教・黒住教の教祖一族・幹部勢力、ほんぶしん幹部、國學院大學、皇學館大学、日本大学（旧日本法律学校、日大皇道学院）など

・・・「神道」という語や概念を造った勢力。元を辿れば、全てがヤマト王権（大和朝廷）勢力。

➤ 概ね肯定、支持する民間人・宗教者（多くが女性・巫女だが、一部の幹部男性神職も）

別途掲げる吉備巫女神道の巫女、金光教・黒住教の巫女、その他教派神道に所属する吉備出身の巫女、加持祈祷・鳴釜神事を担う巫女、物部神道・斎部神道・中臣神道の巫女、高浜伯家（はっけ）神道の巫女（吉備の高浜清七郎（せいしちろう）一派が同神道を継承し、明治天皇に授けようとしたが、長州藩閥が撃退）、神道天行居（反ユダヤ思想の神道秘密結社。分派の吉備の巫女らによる儀式では、反ユダヤを形式的にのみ掲げる）の巫女、神仙道本部・古神道仙法教・天社土御門（てんしゃつちみかど）神道など神道系新宗教の巫女、明治の弾圧下で欧州に渡った西洋魔術の巫女・魔女など

・・・「神道」という語や概念ができる前の神道の姿の継承・復古を目指す巫女。

・・・吉備神道、巫女神道が好む語：「神々の道」、「神人の道」、「随神（かむながら）の道」、「神奈備の道」、「神霊道」、「神道霊学」、「秘教神道」、「神秘伝」、「霊道」、「霊教」、「神仙道」、「仙道」、「神法」、「仙法」、「呪法」など ※「古道」、「古神道」（言い忘れ：これら二語は復古神道・国家神道側が用いたため、吉備の巫女側が使えず。）

◇ ヤマト 対 吉備の構図（ヤマトの本体・母体を吉備とする平山牧人氏のような説もある。）

➤ 古墳（前方後円墳が円墳や方墳よりも格上） 対 墳丘墓（楯築遺跡、四隅突出型など）

➤ 朝廷・蘇我氏他ほとんどの中央豪族 対 物部氏、忌部・斎部・伊部氏、中臣氏

（崇仏・廃仏・排仏論争）（昨今の研究では、物部氏は大して反仏教派ではなかったとされる。実態は、ヤマト豪族対吉備出身豪族の戦いだった可能性がある。）

かつて十束剣（とつかのつるぎ）を祀っていた赤磐郡の石上布都魂神社（いそのかみふつみたまじんじゃ）など、天照大神よりも造化三神（ぞうかのさんしん）（天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）、高御産巢日神（たかみむすびのかみ）、神産巢日神（かみむすびの

かみ))・スサノオ・大国主(おおくにぬし)を上位の祭神とする意識を有する県内神社の社家に、今も「物部」姓あり。特に巫女が「(備前)物部神道」を名乗る。奈良県天理市の石上神宮は、自らのほうを石上の本社と名乗り、石上布都魂神社を公認していない。

➤ **男系** 対 **女系**

ヤマト文明圏では男系男子が、巫女神道圏では巫女共同体と女系男子が重用される。ヤマト(今の日本)では、天照大神の女系男子皇統の中で男系男子正統論を展開している皮肉がある。つまり、ヤマトも元は巫女神道一派(邪馬台国)で、卑弥呼亡きあと朝鮮半島系の家父長制の論理を列島に適用して巨大化させたものが現「日本」として発展したことが窺える。

➤ **女帝、皇后、中宮、斎王(斎宮、斎院)、内掌典** 対 **吉備・出雲の巫女(隠れ女王・女帝)**

女性天皇(女帝)は全て巫女を兼務。巫女性を削がれた現在の女性皇族がそのまま践祚できるようなものではない。過去の女帝が全て男系女子であったことを、現在の男系維持論の根拠として用いることはなじまない。宇佐八幡宮神託事件では、孝謙(称徳)天皇と道鏡が手を組んだとされるが、道鏡は弓削(ゆげ)氏の出とされ、これはそのまま、物部守屋に始まる物部弓削氏・吉備弓削氏のことであるはずで、氏の本拠は岡山県久米郡弓削町(現・久米南町)であったと考えられる。「弓削」は職能を表し、弓の製作を担い、物部氏と共に吉備勢力の中心を担ったと思われる。

➤ **大王・天皇** 対 **吉備の王**(参考:筑紫、出雲、毛野(けぬ)、越(こし)、美濃、尾張などの王も共存か。)

➤ **朝廷・蘇我氏の仏教解釈(国家鎮護)**

対 **奈良仏教(仏教一般の合同研究グループ)、吉備神道、出雲神道、巫女神道**

➤ **『記紀』(『古事記』・『日本書紀』)、六国史、『新撰姓氏録』** 対 **吉備史観**

『記紀』などの正史が正当、偽書が捏造という観点を離れ、正史もまた偽書、創作物、或る種の芸術作品、自分たちの権威付けの産物であるという観点が本当の中立性。

➤ **奈良、京都、太宰府、吉備太宰、征西将軍、征夷大将軍、征東将軍、『万葉集』・勅撰集**

対 **吉備文化**

➤ **皇統・皇別氏族(蘇我氏、息長(おきな)氏、葛城氏、紀氏、橘氏、清原氏、高階氏、在原氏、源平など)**

対 **神別氏族(物部氏、忌部・斎部・伊部氏、中臣氏、大中臣氏、藤原氏、大神(おおみわ)氏など)**

対 **諸蕃氏族(秦氏、東漢(やまとのあや)氏、百濟王(くだらのこにきし)氏など)**

実際は、天皇・朝廷勢力自体が秦氏・百濟系王族の一派である可能性がある。また、吉備氏は皇別だが、吉備の氏族が吉備氏ではなく、吉備豪族のある一派が吉備氏を名乗る。

➤ **国策・教団としての浄土思想、浄土教、浄土宗、浄土真宗**

対 **密教としての平安仏教、鎌倉仏教の開祖(法然、親鸞、道元)**

➤ **伊勢内宮神道(荒木田神道)**

対 **伊勢神道(伊勢外宮神道、度会神道)、伯家神道、反本地垂迹(ほんじすいじゃく)説(神本仏迹(しんぼんぶつじゃく)説)、儒家(じゅけ、じゅか)神道、道教、陰陽道、修験道、土御門神道、密教神道、神道中心の神仏習合、吉田神道、吉川神道、垂加神道、平田神道(復古神道)**

対 **本地垂迹説、仏教中心の神仏習合、両部神道、山王神道**

内宮神道は天照大神・皇統を絶対視し、**外宮・伯家・儒家神道系**は宇宙開闢の造化三神・

豊受大神（とようけのおおかみ）・天之御中主神・国常立神（くにのとこたちのかみ）などの天神地祇八百万神（あまつかみくにつかみやおよろずのかみ）を汎神論的に靈験し（従って、天照皇統もまた神々の一派に過ぎないとするばかりか、男系に転向した神道の異端と見ることさえある）、**本地垂迹説系**は神道の神々を大日如来や阿弥陀如来などの日本における権現とする。

国家神道の基盤は平田復古神道の曲解・利用で成り立っており、設計者のほとんどは平田神道の神官。裏切られた平田神道の巫女らは、吉備巫女神道や出雲神道と結託。**幽冥界（ゆうめいかい）** 思想を深めて、明治・大正・昭和の政府、国家神道、神社本庁などに呪詛を仕掛ける秘伝秘儀を行うようになり、「神道」の語を避けて、「靈教」、「呪道」、「神法」などを用いるようになった。

➤ **国家神道 対 教派神道（巫女たちの逃亡先）**

国家神道の別称：皇室神道、神社神道、非宗教神道（神社非宗教論）、国民道徳、国体神道
教派神道の別称：神道十三派、神道教派、別派特立神道、宗教神道、教団神道

神道総本山として設置された神道本局・神道事務局も、整備の失敗で、神道大教・神道大教団として教派神道の統括機関に追いやられ、国家神道に追従するものとされた。

神道はユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの万教の上位に位置する絶対宗教とされ、神道の主宰者である天皇はヤハウエ、キリスト、アッラーなどの万教の創始者を束ねる絶対唯一神とされた。

表向きは、神道の感性的側面（軍国主義を愛する義務としての倫理道徳）と理性的側面（あくまでも各々の神道家らが行う神道教育、神道理論）との違いであると見せかけることで、**ヤマト** 対 **吉備**（元来の女系巫女神道としての皇室神道）の構図が露見しないようにした。しかし、実際は「幽冥界思想」など、原始神道・シャーマニズムの汎神論的・多神論的・感性的要素を維持したのは吉備神道や出雲神道で、国家神道側（特に薩長藩閥、中でも長州・萩・津和野藩）は西洋キリスト教の教団システムを参考に、天皇における神格の極点化を狙った。このような「国学」や「神道」のあり方は、大国隆正（おおくにたかまさ）一派の主張により、「本教」や「本学」などと呼ばれた。

長州・山口を選挙地盤とする安倍前首相夫妻が神社本庁系や大規模単立法人系神社を参拝していること、広島・岡山の神道勢力を親自民党化させていることは、ヤマト対吉備の歴史が背景にある。（神道天行居や神仙道系巫女神道の結界の例。）

➤ **祭神論争**

吉備は、**ヤマト** 対 **出雲**の闘争を傍観し、最終的には**出雲**に肩入れ。

➤ **神社神道 対 巫女神道、シャーマニズム、アニミズム**

➤ **漢語としての「神社（じんじや）」 対 和語＝吉備語としての「姫社（ひめこそ）」**

総社市福谷・秦の人々が守る姫社神社の名は、同語反復・トートロジーであるから、「神社」の部分削除するのが適切であるとする巫女もいる。

➤ **神社本庁（岡山県護国神社、吉備津神社、吉備津彦神社など）**

対 **吉備巫女神道（靈道、陰陽道、仙道、磐座神事、神劍演舞、巫女舞、吉備楽、吉備舞など）**

ここで、金光教と巫女神道の関係についてのご質問への事前回答を読む。

➤ 吉備の巫女神道の巫女以外で、かつての巫女神道の儀式にあたるものの一部を展開してい

る職業としては、女性宗教家、セラピスト、スピリチュアル・カウンセラー、旅館の女将、女中、助産婦、家政婦、女医、女性看護師などがあるが、根底には現代の西洋医学、西洋の生活態度、西洋の法概念の遵守が求められており、巫女神道を含む古代東洋のシャーマニズム・アニミズムに基づく宗教儀式の要素は排除されて成り立っている。

また現在、吉備の巫女神道の巫女も、ほとんどが金光教や黒住教などの宗教団体や神社本庁系の神社に使用人として所属しており、自らの女系家系に伝わる家業としての加持祈祷や呪詛の秘儀を職業としている巫女は皆無と思われる。